シラバス参照

タイトル「**2023年度大学院危機管理学研究科(公開用)**」、フォルダ「**大学院危機管理学研究科**」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

科目ナンバー			
科目名	危機管理法制４（行政・国家）		
担当教員	杉山　幸一,金山　泰介		
対象学年	1年,2年	開講学期	前期
曜日・時限	水１		
講義室	1211	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	講義		
科目中分類	危機の大学院修士課程カテゴリ		
科目小分類	講義・コア		
科目の位置付け（開発能力）	■ＤＰコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1 [意欲・経験・適性] 災害，テロ，国際紛争等，複雑化した現代社会における様々な危機に対する高い関心と深い洞察（25%） DP2 [学識・専門技能] 災害，テロ，国際紛争等，複雑化した現代の様々な危機を分析し解決するための，法学，政治学，国際関係学等の社会科学の知見を統合した応用的な知識と技能（50%） DP3 [思考力・判断力・表現力] 客観的な情報やデータをもとに論理的に考察し説得的に表現する力（25%）		
教員の実務経験	警察庁、都道府県警察、内閣官房、在タイ日本大使館等34年間の実務経験を基に、国家的な危機管理の法制度及び運用について具体的に説明する。(金山第9～14回)		
成績ターゲット区分			
科目概要・キーワード	危機管理に関する研究を行う上で，危機管理に係る法律や制度，またそれらの運用についての正確な知識および実践を理解することは不可欠である。本講では，国家がどのような法律，制度に則り，危機の未然防止や，危機発生時の被害拡大を防ぐための活動を様々な関係諸機関と連携しながら行っているのかを実際の事例に基づき学修する。国家を起点としながら，危機管理には様々なアクターが関わるため，その前提となる根拠法，制度，枠組みの理解とその深遠化は実対応においてきわめて重要となる。これらの研究プロセスを通じて，学識・専門技能に加え，判断力・思考力・表現力等の汎用的能力を開発することを目的とする。 （杉山　幸一／８回） 憲法学の立場から，立法，司法，行政の公権力と危機管理との関係について教授する。 （金山　泰介／７回） 警察学の立場から，警察行政と危機管理との関係について教授する。 授業形態は講義形式により行います。なお，対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として，又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード：立憲主義、三権分立、犯罪統制、社会安全		
授業の趣旨	■副題 憲法学・警察学と危機管理 ■授業の目的 危機管理に係る法律や制度を知るだけでなく、憲法をはじめとした法解釈や警察法など行政にかかわる法律の運用について、テーマごとに調べ、その成果をまとめ、発表する。この各過程を通じて、学識・専門技能に加え、判断力・思考力・表現力を開発することを目的とします。 ■授業のポイント 本講義では、危機管理に関する法律や制度、そしてその運用のために必要な知識を、憲法学と警察学を通じて習得することを目的とする。憲法は国家の基本法であり、すべての法律はこの憲法に基づき制定される。これが立憲主義であり、これを理解するために法解釈などが必須となる。また、警察行政は、外交、防衛と並ぶ国家の基本的機能である治安すなわち社会の安全を司り、その手段は国民の権利自由を制限することで行政目的を達成するものが多いことから、その運用には慎重な判断が求められる。そのための知識や判断力や思考力などを養い、いざというときに解釈し、実践できるための姿勢を養成する。		
総合到達目標	■災害，テロ，国際紛争等，複雑化した現代の様々な危機を分析し解決するため、憲法学と警察学の知識を習得する。 憲法学と危機管理との関係を説明できる。（第1回～第8回） 警察学と危機管理との関係を説明できる。（第9回～第15回） ■憲法学・警察学の視点から、危機的状況に際しての判断力・思考力・表現力等の汎用的能力を開発することを目的とする。 憲法学の視点から、危機的状況に際しての判断力・思考力の基礎となる法解釈を行うことができる。（第1回～第8回） 警察学の視点から、規制的権限行使に当たっての判断力・思考力の基礎となる法解釈を行うことができる。（第9回～第15回）		
成績評価方法	■授業内のレポート：2回（80%、DP1,DP2,DP4） （評価の観点）講義内容を踏まえ、与えられた設問に対して、的確かつ論理的に答えているかどうかを評価します。 （フィードバックの方法）授業中に説明する。 ■授業における個別質問への回答内容等授業参加度（20%、DP1,DP2,DP4） （評価の観点）判断力・思考力・表現力を評価します。 （フィードバックの方法）講義中、必要に応じてコメントします。		
履修条件	特になし		
履修上の注意点	特になし		

授業内容

回	内容
1	①授業テーマ　危機管理と立憲主義 ②授業概要　立憲主義、憲法、国家について説明できるようにする。（DP-1,2, 3） ③予習（120分）事前配布資料及び参考文献該当部分を精読し、立憲主義や憲法を理解する。 ④復習（120分）講義ノートを整理し、危機管理と憲法の関係について考察する。

2	①授業テーマ　統治機構と権力分立 ②授業概要　日本国憲法では、国政は国民の信託に基づくとされている。国民の信託を受けて国家を実際に運営する統治機構の法制度、さらに統治機構が国民の信託を裏切らないようにするための権力分立について、危機管理の観点から説明できるようにする。（DP-1,2, 3） ③予習（120分）事前配布資料及び参考文献該当部分を精読し、統治機構と権力分立を理解する。 ④復習（120分）講義ノートを整理し、危機管理と権力行使の関係について考察する。
3	①授業テーマ　大日本帝国憲法と危機管理 ②授業概要　大日本帝国憲法では、国家の危機に対しての規定が存在した。いわゆる国家緊急権について、大日本帝国憲法の制度や運用を確認し、そしてその運用の失敗について分析する。（DP-1,2, 3） ③予習（120分）事前配布資料及び参考文献該当部分を精読し、大日本帝国憲法における危機管理を理解する。 ④復習（120分）講義ノートを整理し、大日本帝国憲法における危機管理の運用と失敗の関係について考察する。
4	①授業テーマ　日本国憲法と危機管理（危機管理法制と人権保障） ②授業概要　日本国憲法では、大日本帝国憲法と異なり、国家の危機に対しての規定が存在しない。日本は法律レベルで危機的状況に対応しようとしている。さらに危機管理法制のもとで人権保障がどこまで制限できるのか理解する。（DP-1,2, 3） ③予習（120分）事前配布資料及び参考文献該当部分を精読し、日本国憲法下における危機管理法制を理解する。 ④復習（120分）講義ノートを整理し、日本国憲法における危機管理に対する考え方と実際の運用、問題点について考察する。
5	①授業テーマ　日本国憲法と国家緊急権 ②授業概要　日本国憲法は大日本帝国憲法と異なり、国家緊急権に関する条文がない。そこで、日本国憲法の下で議論されている国家緊急権についての先行研究や諸外国の制度を概観し、国家緊急権の必要性の有無について理解する。（DP-1,2, 3） ③予習（120分）事前配布資料及び参考文献該当部分を精読し、現代の憲法下での国家緊急権議論を理解する。 ④復習（120分）講義ノートを整理し、わが国に国家緊急権が必要なのか否かについて考察する。
6	①授業テーマ　憲法と安全保障① ②授業概要　日本国憲法は平和主義を宣言し、憲法9条では平和主義を具体化するため、戦争放棄、戦力不保持、交戦権の否認について定めている。それぞれどのような経緯で現行憲法に導入され、どのような意味を有するのか、日本の安全保障政策の基本である憲法9条をどのように解釈すべきか考察する。（DP-1,2, 3） ③予習（120分）事前配布資料及び参考文献該当部分を精読し、現代の憲法下での９条の解釈を理解する。 ④復習（120分）講義ノートを整理し、わが国に安全保障の基本が何かについて考察する。
7	①授業テーマ　憲法と安全保障② ②授業概要　　憲法9条の下で、わが国は自衛隊を有している。自衛隊の保有に至るまでの経緯を概観し、わが国の自衛隊とは憲法上どのような根拠をもって存在しているのか、そして自衛隊の存在理由の一つである自衛権について憲法上どのようにとらえればいいのか考察します。さらに、近年問題となった集団的自衛権を含む日本における自衛権の変遷や比較法的に概観し、現在の安全保障体制について理解する。（DP-1,2, 3） ③予習（120分）事前配布資料及び参考文献該当部分を精読し、現代の憲法下での９条の解釈を理解する。 ④復習（120分）講義ノートを確認し、憲法9条の解釈をあらためて確認し、現行憲法下における自衛隊、日本の安全保障、危機管理について調べ、考える。
8	①授業テーマ　憲法と危機管理（まとめ） ②授業概要　前半の講義内容から出題する。出題の解説に基づき前半の講義のポイントを押さえる。（DP-1,2, 3） ③予習（240分）レポートの準備をする。 ④復習（60分）解説に基づき答案を再構成する。
9	①授業テーマ　国家の危機管理 ②授業概要　内閣官房（内閣危機管理官と内閣情報官）と犯罪対策閣僚会議にかかる法制度とその運用について受講者が説明できるようにする。（適用ルーブリックーE1・I1） 　担当教員の実務経験を踏まえて具体的に説明します。 ③予習（120分）事前配布資料及び参考文献該当部分を精読し、内閣の危機管理に関する組織を理解する。 ④復習（120分）講義ノートを整理し、内閣危機管理官・内閣情報官と犯罪対策閣僚会議の役割の違いを整理する。
10	①授業テーマ　警察制度 ②授業概要　社会の危機管理を担う我が国の警察制度の概要について受講者が説明できるようにする。（適用ルーブリックーE1・I1） 　担当教員の実務経験を踏まえて具体的に説明します。 ③予習（120分）事前配布資料及びテキスト該当部分を精読し、警察制度の概要を理解する。 ④復習（120分）講義ノートを整理し、警察制度の変遷をまとめる。
11	①授業テーマ　警察活動の意義と理念 ②授業概要　警察活動の目的とその権限行使の理念について受講者が説明できるようにする。（適用ルーブリックーC1・E1・G1・I1） 　担当教員の実務経験を踏まえて具体的に説明します。 ③予習（120分）事前配布資料及びテキスト該当部分を精読し、警察権限法制を理解する。 ④復習（120分）講義ノートを整理し、警察行政活動と犯罪捜査の違いを整理する。
12	①授業テーマ　犯罪の統制 ②授業概要　犯罪の検挙、予防等犯罪の統制による社会の安全維持活動について受講者が説明できるようにする。（適用ルーブリックーC1・E1・G1・I1） 　担当教員の実務経験を踏まえて具体的に説明します。 ③予習（120分）事前配布資料及びテキスト該当部分を精読し、警察権限法制を理解する。 ④復習（120分）講義ノートを整理し、警察行政活動と犯罪捜査の違いを整理する。
13	①授業テーマ　犯罪以外の反社会的行為の統制 ②授業概要 犯罪とされていない反社会的行為に対する行政措置と刑罰の関係について受講者が説明できるようにする。（適用ルーブリックーC1・E1・G1・I1・I2） 　担当教員の実務経験を踏まえて具体的に説明します。 ③予習（120分）事前配布資料及びテキストを精読し、暴力団対策、配偶者暴力、ストーカー対策法令等の枠組みを理解する。 ④復習（120分）講義ノートを整理し、犯罪化の意義を考察する。
14	①授業テーマ　反社会的組織の統制 ②授業概要　暴力団等犯罪組織及びテロ組織にかかる法制度と運用について受講者が説明できるようにする。（適用ルーブリックーC1・E1・G1・I1・I2） 　担当教員の実務経験を踏まえて具体的に説明します。 ③予習（120分）事前配布資料及びテキストを精読し、組織犯罪対策諸法令の概要を理解する。 ④復習（120分）講義ノートを整理し、暴力団排除の限界について考察する。

	15	①授業テーマ　期末レポートと全体のまとめ ②授業概要　後半の講義内容から出題する。出題の解説に基づき前半の講義のポイントを押さえる。（C1・E1・G1・I1・I2・I3 ） ③予習（240分）レポートの準備をする。 ④復習（60分）解説に基づき答案を再構成する。
関連科目	危機管理法制４～６、社会安全・治安維持特講、犯罪・刑事司法特講、テロリズム対策特講、危機管理学研究演習Ⅰ～Ⅳ	
教科書	金山泰介『新版警察行政概論』立花書房2019	
参考書・参考ＵＲＬ		
連絡先・オフィスアワー	■連絡先　開講時に告知します。 ■オフィスアワー　開講時に告知します。	
研究比率	■危機管理と法学とのバランス 危機管理50%；法学50%	

戻る

Copyright (c) 2016 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.